

第4学年 国語科書写学習指導案

令和4年6月7日(火) 第 校時
練馬区立〇〇小学校 第4学年 組 名
指導者 中野区立〇〇小学校 教諭

研究主題 書写の能力を高め、日常に生かす学習指導の工夫
中学年分科会の目指す児童像 「書写で培った力を、日常生活に生かすことのできる児童」

- 1 単元名 筆順と字形
【教材文字】「左右」
- 2 単元の目標
筆順と字形の関係を理解し、字形を整えて書くことができる。
- 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	○筆順と字形の関係を理解し、字形を整えて書いている。	○試し書きと基準を比較し、自分の課題をつかんでいる。	○課題解決に向け、意欲的に練習に取り組んでいる。 ○学習したことを日常の書字に生かそうとしている。

- 4 単元設定の理由
 - (1) 指導事項の意義
学習指導要領において、第3学年及び第4学年の書写指導については、「知識及び技能」の目標「(3) 我が国の言語文化に関する事項」に次のように示されている。

エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと
・ 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。
(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。
(ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

についても学習してきている。

「左」の一画目は横画、二画目は左払いである。また、「右」の一画めは左払い、二画目が横画である。いずれも、一画めが短く、二画目が長くなるのであるが、普段の児童の文字を見ても、「左右」の字形の違いを明確に書き分けられている児童は少ない。

そこで、本単元では、「左」と「右」を改めて両者を比較させることにより、両者の字形の違いは筆順によることを、理解できるようにする。指導するにあたり、毛筆を使用して大きく書くことにより、両者の違いが明確になる。また、毛筆を使用することにより、「左」の横画の「止め」からの「左払い」、「右」の「左払い」からの「横画」の始筆、という点画のつながりについても理解させやすくなると考える。

本単元の導入の際には、横画及び左払いの分解文字を用意し、それらを操作させることにより、横画、左払いの長さの違いを視覚的に理解できるようにする。

さらに、これまでに学習した漢字の中から同様の筆順の文字を探す活動を行うことにより、本単元で学習したことを、日常で使用する他の文字に生かして書くことができるようにする。

(2) 本単元における知識及び技能 ※ゴシックは初出事項

用語・指導事項	【用語】 一画目、二画目… 始筆、終筆、送筆、横画、縦画 とめ、折れ、左払い 【筆順】 【字形】 先に書いた画が短くなる
---------	--

(3) 指導事項の系統

学年	筆順	字形	学習場面や日常に生かす
(水書用筆含む) 硬筆 一年、二年	・上から下へ ・左から右へ ・外側から内側へ ・突き抜ける画は最後	・外形 ・文字の中心 ・点画の組み立て方 (方向、長さ、点と画の間 付き方と交わり方)	各教科のノート 自己紹介カード 観察カード 学期ごとのめあて 係活動表 お楽しみ会プログラム 招待状 など
硬筆・毛筆 三年、四年	・先に書いた画が短くなる	・部分の組み立て方 (左右、上下、かまえたれ)	各教科のノート 自己紹介カード 観察カード 学期ごとのめあて 係活動表 お楽しみ会プログラム 招待状 俳句 詩 新聞 作文 など
硬筆・毛筆 五年、六年	・先に書いた画の始筆が出る	・部分の組み立て方 (によろ) ・部分の組み立て方 (三つの部分)	学期ごとのめあて 係活動表 お楽しみ会プログラム 招待状 プログラム 詩 短歌 俳句 新聞 作文 クラブ・委員会からのお知らせ きまり・目標 行事のめあて ポスター 新聞 卒業文集 など

5 研究の視点

(1) 硬筆の書写の能力を高める学習の工夫

- ①正しい姿勢を身に付ける。
 - ・合い言葉で確認し、正しい姿勢と鉛筆の持ち方を意識付ける。
 - ・正しい姿勢図を掲示し、視覚的に確認しやすいようにし、常に意識できるようにする。
- ②正しい用具の準備の仕方と筆の持ち方を身に付ける。
 - ・用具の置き方や筆の持ち方を掲示し、視覚的に確認できるようにする。
- ③正しい基準を理解する。
 - ・筆順、点画の書き方を音声化、言語化することで、筆順に関する正しい理解を促す。
 - ・筆順の確認をするために「空書き」を行う。

(2) 自分の課題をもち、解決しようとする学習過程

- ①自分の課題への気づきを促す工夫を図る。
 - ・試し書きと基準文字を比較し、自分の課題となる箇所に印を付けたり、言葉を書いたりして課題の明確化を図る。
 - ・運筆や筆順などについて分かりやすく確認できるように動画を活用する。

- ・教師が児童の書字過程を観察し、適切な指導・助言を行い、運筆能力の向上を図る。
- ②課題解決に向けた主体的な学習を行えるようにする。
- ・課題解決に向け、半紙を折ったり、練習用紙を活用したりしながら練習する。基本的な練習用紙の例「始筆の位置」「外形」「中心線」は提示し、自分で練習用紙を選択（作成）できるようにする。
 - ・電子黒板で基準の書き方をリピート再生し、いつでも見られる状態にしておく。

（３）日常の手書き文字に生かす工夫

- ①文字環境を整える。
- ・文字感覚を養うために、日常の板書や掲示物等の文字環境を整える。
- ②目的意識・相手意識をもたせる。
- ・誰に、何のために書くのかということを意識させることにより、読む相手への思いやりの気持ちを醸成する。
- ③日常の書字活動へ活用する。
- ・毛筆でのまとめ書きの後、硬筆でもまとめ書きをすることで、毛筆で学習したことを硬筆に生かせるようにする。
 - ・学習したことを、各教科等、連絡帳、学習ノート、係活動、観察カード、学期のめあてなどでの書字活動に生かすことができるよう、既習事項について言葉掛けを行う。
- ④振り返りの時間を確保する。
- ・試し書きとまとめ書きを比べ、めあてを振り返り、日常に生かしたいことを確かめる。

（４）学び合いを取り入れた学習活動

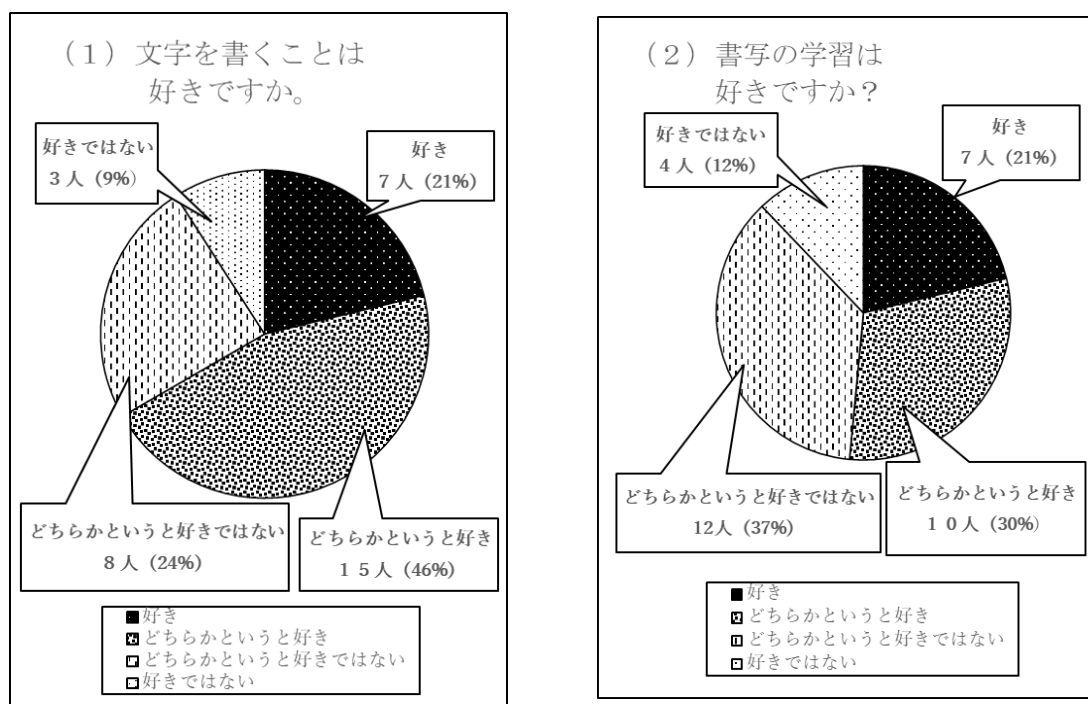
- ①教材文字について話し合う。
- ・教材文字を書く際のポイントを話し合い、めあてに向けた課題解決意識をもつ。
- ②書字過程における学び合いの時間を設定する。
- ・書字過程を児童相互が見合う時間を設定し、互いに助言し合うことで課題解決に迫ることができるようにする。
 - ・教師が児童の書字過程を観察し、適切な指導・助言・支援を行い、運筆能力の向上を図る。
- ③自己評価・相互評価を行う。
- ・書写カードを活用して、自分の課題を振り返り、解決に向けての過程やまとめ書きについての自己評価を行う。
 - ・書字過程を見合ったり、試し書きやまとめ書きを比較したりして、相互評価を行う。
 - ・机間指導における教師の助言や称賛を通して、めあてに合わせて書けているか確認をし、学習意欲を高めていく。
 - ・試し書きとまとめ書きを比較して、基準に沿った評価をする。学級全体で、友達の学習成果を知る。
- ④アドバイスタイムを設ける。
- ・書字過程を見合う中で、書写用語を用いて、相手の課題に則した助言や称賛を行う。

6 児童の実態

（１）書写の学習に関するアンケート結果 （令和４年５月 日実施 名）

「文字を書くことが好きですか」という設問では、「好き」「どちらかという好き」と回答した児童が22名（67％）おり、「どちらかという好きではない」「好きではない」と回答した児童は11名（33％）であった。また、「書写の学習は好きですか」という設問は、17名（51％）の児童が「好き」「どちらかという好き」と回答し、「どちらかという好きではない」「好きではない」と回答した児童は16名（49％）であった。

回答理由を見ると、「文字をきれいに書けるとうれしい」「上手に書けると気持ちがよい」と

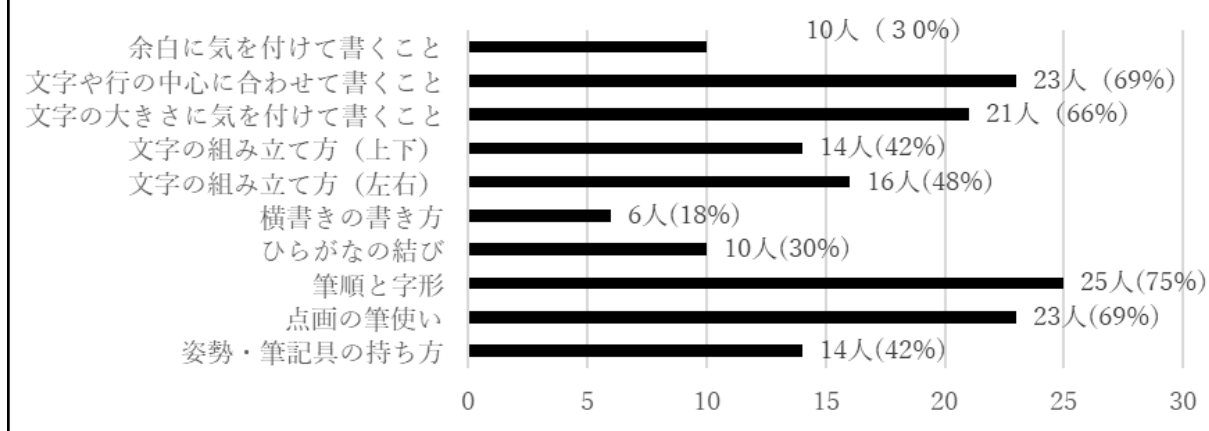


いった思いをもっている児童がいる反面、「文字を書くことが苦手だから」「手が痛くなって面倒だからパソコンで打つのが好き」といったように文字を書くことに苦手意識や抵抗感をもっている児童も多いことが分かる。また、書写（毛筆）の学習を行うことに関しては「鉛筆で書くのとはまた違う感覚で楽しい」「少しずつ文字がうまくなって嬉しい」など、書写が好きな児童は学級の半数を占める。しかし、「筆の扱い方が難しくてうまく書けない」「集中力が続かない」など、好きではない児童も多い。

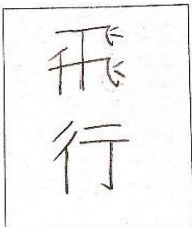
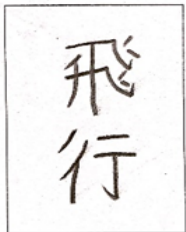
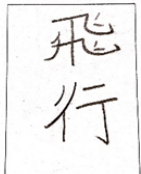
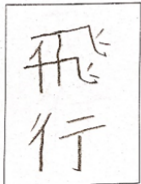
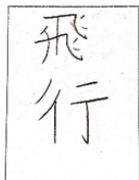
そこで、文字を書く際に気を付けるポイントをしっかりと全体で確認し、自分の課題をもちながら主体的に書写の学習に取り組めるようにすることが大事だと考える。また、筆使いに慣れさせ、学習の最初と最後には文字の書き方に変化がみられるようにしたい。このようなことを積み重ね、毛筆を硬筆につなげることで、児童一人一人が自分の文字に自信をもち、意欲的に書写の学習・書字活動に取り組めるようにしたい。

文字を書く時、「文字や行の中心に合わせて書くこと」は23名（69％）、「文字の大きさに気を付けて書くこと」は21名（66％）と学級の70％程度の児童は文字や行の中心を意識して文字を書き、大きさに気を付けていることがわかる。しかしながら、「余白に気を付けて書くこと」は10名（30％）と、余白を意識して書いている児童が少ないということがわかった。

(3) いつも文字を書く時、気を付けていることは何ですか？



(2) 「左右」の筆順と字形に関する児童の実態調査

	「左」	「右」	「左右」の書き分け
概ねできている	○横画が短く、左払いが長く、一画目に横画、二画目に左払いを書いていると思われる。  名 (%)	○左払いが短く、横画が長く、一画目に左払い、二画目に横画を書いていると思われる。  名 (%)	○横画と左払いの長さを書き分けることができている。  名 (%)
できていない	△横画が長く、左払いが短い。または、同じくらい。  3名 (9%)	△左払いが長く、横画が短い。または、同じくらい。  3名 (9%)	△横画と左払いの長さが、両方ともできていない。(逆になっている。)  14名 (42%)

硬筆における実態調査から、

時間	主な学習活動	○評価
1 本 時	①「左右」の試し書きをする。 ②「左右」の分解文字を操作し、筆順と字形の関係を考える。 ③学習のめあてを知る。 筆順に気をつけて、字形を整えて書こう。 ④「左右」の基準と試し書きを比べ、赤ペンで自分の課題を書き込む。 ⑤自分の課題解決に向け、練習をする。 ⑥ペアで書字活動を見合い、アドバイスをし合う。 ⑦学習の振り返りをし、次時に向けての見通しをもつ。	○試し書きと基準を比較し、自分の課題をつかんでいる。 【思考・判断・表現】
2	①学習のめあてを確認する。 筆順に気をつけて、字形を整えて書こう。 ②基準を確認する。 ③書写カードで自分の課題を確認する。 ④自分の課題に向けて、「左右」の練習をする。 ⑤ペアで書字活動を見合い、アドバイスをし合う。 ⑥課題を意識しながら、まとめ書きをする。 ⑦試し書きとまとめ書きを比較し、自己評価・相互評価を行う。 ⑧毛筆で学習したことを生かし、硬筆でまとめ書きをする。 ⑨これまでに学習した漢字一覧表から、同じ筆順の漢字を探す。 ⑩学習の振り返りをし、学習したことを他教科や日常に生かすことを確かめる。	○課題解決に向け、意欲的に練習に取り組んでいる。 【主体的に取り組む態度】 ○筆順と字形の関係を理解し、字形を整えて書いている。 【知識・技能】

【日常の手書き文字に生かす工夫】

	主な活動	・留意点 ○評価
社会科 「 」	① ② ③ ④ ⑤自分のめあてを振り返り、自己評価を行う。	・社会科の新聞を書く際、書写で学習したことを生かせるようにする。 ○学習したことを日常の書字に生かそうとしている。 【主体的に取り組む態度】

8 本時の学習 (1/2時)

(1) 本時の目標

筆順と字形の関係を理解し、字形を整えて書くことができる。。

(2) 展開

	学習活動	教師の支援・指導	○評価
--	------	----------	-----

課題提示	①毛筆で「左右」の試し書きをする。 ②「左右」の分解文字を操作し、筆順と字形の関係を考える。	・横画と払いの分解文字を用意し、実際に児童に操作させることより理解できるようにする。	
	③ 「左」…一画目は横画、二画目は左払い。横画は短く、左払いは長い。 「右」…一画目は左払い、二画目は横画。左払いは短く、横画は長い。 ＊先に書く画は短く、後に書く画は長い。		
課題把握	④「左右」の基準と試し書きを比べ、赤ペンで自分の課題を書き込む。	・書写カードに自分のめあてを書く。 ・始筆や運筆について確認するため、動画を活用する。	○試し書きと基準を比較し、自分の課題をつかんでいる。 (試し書き、書写カード) 【思考・判断・表現】
実行・追究	⑤自分の課題に向け、練習する。 ⑥ペアで書字活動を見合い、アドバイスをし合う。	・練習用紙の例を掲示する。 ・動画は連続再生して、児童がいつでも見られるようにする。 ・基準を確認しながら課題を意識して書くように助言する。 ・筆の持ち方、姿勢を確認させる。 ・筆順が正しいかどうかについて確認するようにさせる。 ・アドバイスをもとに、練習の続きを行わせる。	
まとめ・確認	⑦学習の振り返りをし、次時に向けての見通しをもつ。	・次時は、練習の続きを行い、まとめ書き、日常化を行うことを知らせる。	

9 板書計画

六月七日 「筆順と字形」

基準

左…①横画 ②左はらい
 右…①左はらい ②横画
 先に書く方が、短い。
 後に書く方が、長い。

左右

つけて、字形を整えて書こう。

アドバイスタイム

練習用紙 例

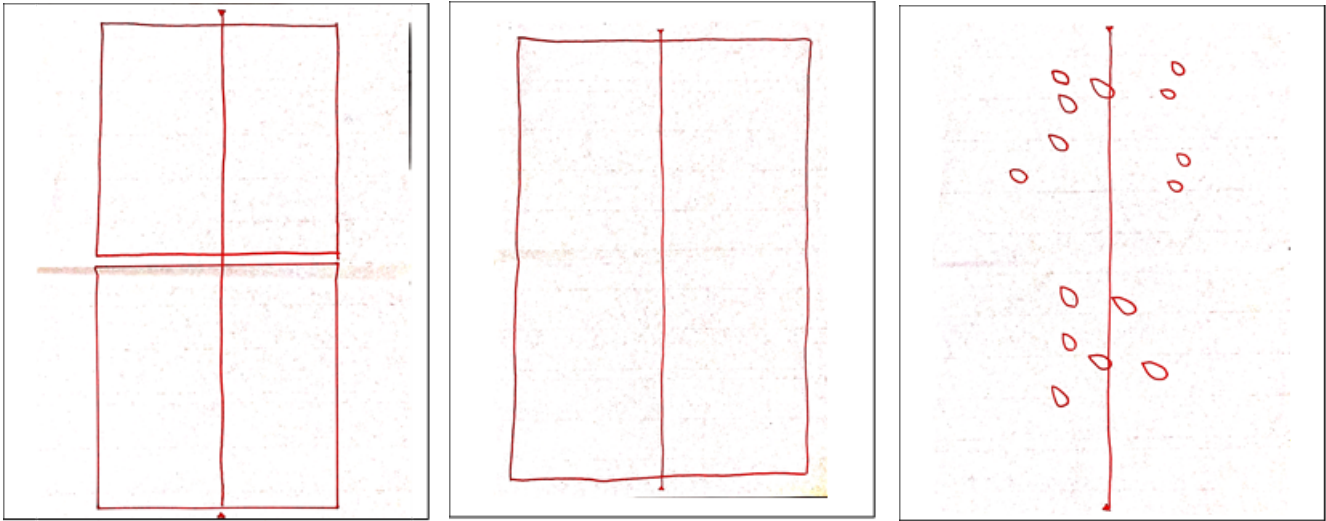
練習用紙 例

練習用紙 例

日常生活に活用
ふり返り

10 資料

練習用紙 (児童が作成する練習用紙の例)



書写カード

